

Case6

海外企業へのエンゲージメント事例（資源F社）

協働・個別のエンゲージメントを組み合わせ、積極的な開示と対話につなげる

課題

サステナビリティ経営
リスクマネジメント
健康とウェルビーイング
大気・水質・土壌汚染

問題意識

環境と社会の外部性に対して、数多くの重大な課題に直面しています。持続可能で責任ある鉱業に向けて、包括的なアプローチと効果的な実践、更には開示とコミュニケーションの強化により、長期的な成功を収めかつ株主に持続可能な価値を提供することができると考えています。



Issue 課題

【対象企業の課題】

中国に本社を置く「資源F社（以降F社と記載）」は、金を扱う鉱山会社から、多様な鉱物を発掘し銅・亜鉛・リチウムも取り扱うグローバル企業へと事業転換をしました。48,000人以上の従業員のうち半数近くは海外で雇用されており、環境に配慮した採掘及び金属生産プロジェクトを16カ国で展開しています。特に銅の生産は世界でもトップ10に入る規模で、現在、F社の売上高の20%を占めています。インフラの電化や再生可能エネルギーへの転換に必要とされるこの金属素材は、今後更に成長していく分野であると予想されます。

一方で、鉱山会社は環境と社会の外部性に対して重大な課題に直面しており、従業員の労働環境・事業を行う地域との関係性・環境や水資源の汚染・廃棄物の問題などは主要な懸念点です。より長期的な成功を収め、株主に持続可能な価値を提供するためには、持続可能で責任ある鉱業に向けた包括的なアプローチとその効果的な実践が不可欠です。更に、サステナビリティ戦略、ESG関連のイニシアティブに対しての情報開示や投資家とのコミュニケーションを改善する必要性も高いと考えます。

Action アクション

【対話内容】

過去1年間、当社はF社に対して3回のエンゲージメントを行いました。まず、2022年からACGA(Asian Corporate Governance Association)が主導する協働エンゲージメントに積極的に参加しました。この投資家グループはこの1年間に2度にわたってF社と対話を行い、初回のミーティングではF社のIRとESG専門家を交えて以下3つの課題について議論し、改善を求めました。

- (1) 環境関連の情報開示
- (2) 汚染と社会の指標に関するKPIの設定
- (3) 従業員の健康と安全管理

更にこのエンゲージメントは経営陣との対話に発展し、ESG取組みがいかに企業の成長戦略とつながり、その成果と進捗度合いがどのように示されているのかについて議論しました。当社はこのグローバル投資家による協働エンゲージメントへの参加を通じて、特に気候戦略の詳細や、ESG委員会の役割と取締役会におけるその他の主な委員会との相互作用など、サステナビリティに関わるガバナンスの取組みについて説明を求めました。

また、2023年の6月に当社はF社と1on1のエンゲージメントを行い、2029年までに排出量のピークを迎え、2050年までにカーボンニュートラルを実現するための計画と進捗について議論しました。F社は、再生可能エネルギーの利用を現在の16.2%から2030年までに30%以上にするとの目標を掲げています。我々はF社の詳細なアクションプランと、それぞれのプロジェクトを実行した際、どのように資本配分の意思決定に反映したかについて説明を求めました。そして、2022ESGレポートの中で、ESG・サステナビリティの要素を役員報酬の20%にすると明記されたことに関しては、役員報酬に関するKPI指標の透明性と、中長期的なビジネス戦略及びそのパフォーマンスにどのようにつながっているのか、より充実した開示を促しました。

Outcome 成果

【対話の達成状況】

過去1年間、F社はESG課題に取組む姿勢や情報開示、及び投資家との対話姿勢は著しく改善しました。投資家との対話と透明性の強化を目的にESG専門家を新たに任命し、経営陣もより積極的に投資家とエンゲージメントを行いました。2023年1月末に、2025年までの事業計画と2030年の目標を発表したと同時に、気候変動に関する行動計画を公表しました。初めて削減目標を発表し、中国の非鉄金属産業で最初のTCFDレポートを作成しました。最新の2022ESGレポートでは、開示された指標やデータの数が前年比で16%増加し、同社の戦略的計画と様々なESGイニシアティブの実施状況を示しています。

本件では、協働エンゲージメントと個別エンゲージメントを組み合わせることで、より効果的な成果へとつながりました。協働エンゲージメントによって、他のグローバル投資家とともに影響力のある共同メッセージが発信できた一方、個別エンゲージメントを通じて会社のアプローチに対する定性的かつ前向きな深い理解もできました。

これまでF社は、外部のESG評価機関から低い評価を受けており、採掘事業に関連する論争に度々さらされてきました。低炭素化やエネルギー転換による需要の高まりの中で、銅などの金属が重要である一方、その投資リードタイムが長いことを考えると、本件はダウンサイドリスク管理の観点だけでなく、重要なESG要素が影響を及ぼす投資のアップサイドの可能性と価値創造の機会を積極的に目指すという当社のエンゲージメント取組みをも反映しています。

私たちは、F社が設定した目標と進捗状況を引き続きモニタリングし、重要なESG事項に関するF社の取組みに対しエンゲージメントを継続する予定です。また、サプライチェーンやリスクの高い地域でのデューデリジェンスの強化、ESG外部性の管理、共同プロジェクトにおける情報開示の改善などについても、会社が更に進めていくことを期待します。